

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	ポピュラーサイエンス分野の翻訳における評価シフトの研究：英語科学雑誌記事の日中翻訳を中心に
Title(English)	
著者(和文)	陳燕
Author(English)	Yan Chen
出典(和文)	学位:博士（学術）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10019号, 授与年月日:2015年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:野原 佳代子,中山 実,室田 真男,武井 直紀,亀井 宏行
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10019号, Conferred date:2015/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第 号			学位申請者氏名		陳 燕	
論文審査 審 査 員		氏 名	職 名		氏 名	職 名	
	主査	野原 佳代子	教授	審査員	亀井 宏行	教授	
	審査員	中山 実	教授				
		室田 真男	教授				
		武井 直紀	教授				

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は、「ポピュラーサイエンス分野の翻訳における評価シフトの研究：英語科学雑誌記事の日中翻訳を中心に」と題し、以下の 8 章から構成されている。

第 1 章「はじめに」において、本研究は翻訳というコミュニケーションにおいて重要な役割を果たす評価表現のシフト（意味のずれ）を研究対象とし、従来の翻訳研究において実証的に検討されていなかったその実態を記述することを目的とする、と述べている。

第 2 章「研究背景」において、翻訳研究における評価表現に関する先行研究の流れ、ポピュラーサイエンスの定義とテキストとしての機能、科学的意味内容のポピュラー化についての先行研究を概観している。それらの背景をふまえ、より具体的な仮説として「ポピュラーサイエンス分野の翻訳において評価シフトは一般的に観察され、また評価シフトは異なる言語ペアにより異なる傾向を見せる」を設定し検証する、と述べている。

第 3 章「評価シフトの特定、調査対象及び分析手法」では、上記の仮説を検証するための手法と、研究対象とするテキストについて述べている。ポピュラーサイエンスの分野から 5 種類の英語科学雑誌記事 126 編の日本語訳を取り上げ、評価シフトの実例について評価理論を用いて設定した基準（付加系、削除系、調整系）に従って分類し、分析するとしている。

第 4 章「評価シフトの概観」と、次の第 5 章で仮説検証が行われている。第 4 章では、英語科学雑誌記事の日本語訳に見られる評価シフトについて、第 3 章で述べた手法を用いて分析されている。各実例について語彙レベルのみでなく文脈を含めディスコースレベルで精査し、評価理論を用いて設定した基準（付加系、削除系、調整系）にしたがって分類し、統計処理を施した結果が説明されている。英語における上位 100 位までの形容評価表現の訳について調査している。結果として、このジャンルでは評価シフトが特定の翻訳者に限定されず一般的に確認される現象であり、学術論文において出現頻度が高い感情評価が削除系および調整系シフトの対象になりやすいことを述べている。

第 5 章「評価シフトからみる日中訳の特徴」では、異なる言語ペアの調査として、上記 5 種類のうち 2 種類の英語科学雑誌記事から 42 編の中国語訳から評価シフトの出現頻度を調査し日中それぞれの評価シフトの特徴を抽出し、言語間での違いについて考察している。日中翻訳で評価シフトは確認され、しかもその傾向に差異があった。評価極性、主観性、具体性、確実性また文と文の間の繋がり、送り手の立場においてずれが見られた。従って仮説は正しいと検証されている。

第 6 章「ポピュラーサイエンス映像テキストにおける評価シフト」では、さらに、特定の媒体と評価シフトとの関連性を調べるため、ポピュラーサイエンス分野のドキュメンタリー映画 5 本の日本語字幕と、インターネット

トから同分野の映像 28 編の日本語字幕と中国語字幕から実例を集めて比較分析した上で、雑誌記事の翻訳で観察された特徴が映像字幕の翻訳でも共有されていることを確認し、文字数の制限や映像との統合性など映像媒体特有の要素も部分的には評価シフトに影響する、と述べている。

第 7 章「評価シフトに関わる要因分析」では、データの分析から明らかになった日中間の差異に関わる要因について考察し、PERC（科学論文コーパス）と非ポピュラーサイエンスの雑誌記事（政治・経済）の原文と訳文の比較対照、さらに訳文と非翻訳テキストとの比較も行った結果、今回の研究で得た評価シフトの特徴はポピュラーサイエンスというジャンルによるところが大きいことが示されている。日中の評価シフトの差異には、言語習慣、実学に対する態度、科学リテラシーレベルの違いが要因として関わるのではないかと述べている。

第 8 章「結論及び考察」では、本研究で得られた結論を述べている。①学術的科学論文で出現頻度の低い評価表現が評価シフトの対象になりやすいという特徴を日中が共有しているものの、傾向としては日中は逆の方向に向かい、日本語訳が避けようとする感情的、誇張的、擬人的評価表現を中国語訳は積極的に取り入れている。②科学的意味内容のポピュラー化について、翻訳では評価表現の操作（付加・削除・調整）を通して異なる種類のポピュラー化を実現していることがわかり、ポピュラーサイエンス分野のテキストについて「科学的内容」と「観点」を基準としたよる新たな整理の仕方が提供されている。

以上を要するに、本研究はポピュラーサイエンス分野の翻訳に見られる評価シフトの実態を示したとして学術上貢献するところが大きい。よって、本論文が博士(学術)の学位論文として十分価値あるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。